

東北大学理学部自然史標本館の外邦図

東北大学理学部自然史標本館は仙台市青葉山、理学部キャンパスの一角にある。平成7年に開館し、東北大学開学以来、理学部地学系学科が収集した標本類60万点余の中から約1200点を展示公開している。円形の展示室は中央が吹き抜けになっており、「地球生命の進化（化石のコーナー）」「変動する地球（岩石・鉱物のコーナー）」「地表の姿を見る（外邦図のコーナー）」の3つのテーマに分かれている。大きな施設ではないが、見応えがある。2階にはアジア地域の外邦図14枚が展示されていた。（写真参照）

外邦図は、旧陸軍参謀本部陸地測量部が、軍事上の必要性から係争地や占領地などで実際に測量、あるいは現地での地図を入手して複製等の方法で作成した地図類である。作成地域は、北はアラスカから南はオーストラリアまで、東は北米・ハワイから西はインド・パキスタン・アフガニスタンまでの広範囲にわたる。軍事極秘扱いであったため、昭和20年の敗戦時には焼却処分命令が出された。その際、一部が地理学などの研究資料として各研究機関に移送された。東北大学には貨車2台に積んで運びこまれたという。約10万枚は国内有数の所蔵枚数である（当館の所蔵枚数は約2万枚）。

軍事目的で作成された外邦図であるが、現在では、当時の各国の地図作成技術や、原図作成時の歴史的地名、植生や土地利用などを研究する上で重要な資料となっている。また、現在でも詳細な地図の入手が困難な地域については、その

代替としての役割を果たしている。

東北大学における外邦図の所蔵状況は『東北大学所蔵外邦図目録』（東北大学大学院理学研究科地理学教室 2003）で確認できるが、図書館のように直接利用できる体制にはない。理学部地理学教室では、画像と書誌データをWEB上で公開する事業に附属図書館と共同で着手しており、現在デジタルアーカイブにより一部試験公開中である。

(<http://www2.library.tohoku.ac.jp/gaihozu/>)

同キャンパス内の研究塔にある外邦図の保存庫も見せていただいた。キャビネと集密書架が設置され、満州、中国など地域ごとに納められていた。集密書架には重複図分が大型の保存箱に入れ収納されている。特に空調設備は整備していないとの事であったが、利用がないためか、大変きれいな状態で保存されていた。戦渦を潜り抜けてきた外邦図は、仙台市高台の良好な環境の中、静かな眠りについていた。

東北大学理学部自然史標本館のURL
(<http://www.museum.tohoku.ac.jp/nh/>)

(平成18年2月23日訪問)



(写真提供：東北大学理学部自然史標本館)

(人文課 小林雪美)